

千和、立ったまま眠っている

作・唐仁原俊博（喀血劇場）

— 時 —

現在から未来へ

— 場所 —

京都のあちこち

— 登場人物 —

如月千和 6回生 (世古友紀奈)

沢城駿河 5回生 (古野陽大)

忍野XX 9回生 (谷脇友斗)

加藤麻世 8回生 (古谷卓磨)

川鏝翼 7回生 (中西良友)

横木ララア (毒電波素香)

二級河川の人、他 (菅原タイル)

一光の中に千和。
一 BGM「序章」。

千和 あたしが如月という家に生まれ、千和という名前を授かった事に、実は歴史的必然があるように、私が5年かけて大学を卒業出来ずにまさかの6年目に足を突っ込んだ矢先に、その事件は起こった。1年生に混じって一般教養の授業に出席していた、5月。その日の事は、めざましテレビの占いの内容すらあたしは覚えている。

一 2011年4月

沢城 劇団を、作りませんか。
千和 え。
加藤 いやあ、ちょうど演劇とか、やりたいと思ってたんだよなあ、僕。
千和 え。
忍野 よろしく。2003年入学の忍野。
千和 え。
川鏝 2003…、2003って、8回生？
忍野 9回生。今年で卒業予定だけどね。
千和 え。
川鏝 マジかー。あんな、この教室にいる大半は、俺らよりも5つも6つも下なんやで。
加藤 もはや無敵じゃね？何でも出来そうな気がするな。
川鏝 7回生の、
千和 え。
川鏝 川鏝。川鏝翼。
加藤 8回生の、
千和 え。
加藤 加藤。
川鏝 先輩かいな。
沢城 よろしくお願いします。
川鏝 本番っていつやんの？
加藤 え、気い、早くね？
沢城 いや、そんな事ないですよ。5月末でどうです。
四人 5月末！？
沢城 あと3週間。
川鏝 いや、無理やる。
沢城 出来ますよ。
加藤 みんな素人だろ？
沢城 やりましょう。
忍野 面白いけどさ、大丈夫なの？
沢城 いけます。
川鏝 台本は？
沢城 僕が書きます。
加藤 主役は？
忍野 いやあ、まあ別に僕はいいけどさ。

一沢城、千和を見ている。

千和 え。

一全員、千和の方に向き直る。

千和 ろ、6回生の如月千和です。よろしくお願いします。

一タイトル。『千和、立ったまま眠っている』

一千和と沢城。

－2011年6月

一蝉の声。

一BGM『人畜』

一加藤やってきてストレッチを始める。そこへ忍野。

忍野 おはヨン様。

加藤 あ、おはヨン様。

加藤 忍野さん？

忍野 なんだい。

加藤 いつまでこのあいさつ続けるんすか？

忍野 飽きるまで。

加藤 はあ。

忍野 僕、飽きっぱいから、大丈夫。

一そこへ川鍔。

加藤 あ、おす。

川鍔 え？

加藤 え？

忍野 おはヨン様。

川鍔 おはヨン様。

一川鍔、加藤を見る。

加藤 …おはヨン様。

川鍔 (ニヤツとして) おはヨン様。

加藤 うぜえ。

忍野 郷に入っては郷に従えってね。

加藤 いや、単に忍野さんの趣味でしょ。それともなに、忍野さんって郷なの？

忍野 加藤くんは細かいとこにうるさいなあ。

加藤 じゃあもういいっすよ。あ。忍野さんの下の名前って、あれ、ダブルエックスでいいんですよね。

忍野 そうだよ。何だい、今更。

加藤 何でダブルエックスさんって言うんですか。

忍野 僕はねえ、8年で卒業するつもりだったんだよ。だけど、出来なかった。ふふ。大学の最短修学年

数は？

加藤

4年。

忍野

そう。だから僕はダブルエックスと名乗った。それまでの名前を捨ててね。だけど、

加藤

卒業出来なかった。

忍野

そう、その通り。

川鏝

なんなん、名前を捨てるって。

加藤

てか、本名、何なんすか。

忍野

教えない。

加藤

何で。

川鏝

なんなん、名前を捨てるって、それ、具体的には何？どういう事なん？

—沢城、やってくる。

沢城

おはヨン様。

忍野・川鏝

おはヨン様。

—沢城、加藤を見る。

加藤

…おはヨン様。

沢城

おはヨン様。

加藤

(ボソツ) 屈服したわけじゃねえからな。

忍野

だけど僕も、とうとう今年度卒業だ。いつまでも一所に留まっているわけには行かないからね。

沢城

留年って、留まるって書きますよね。留まるだと別にネガティブなイメージないですよね。

川鏝

ほな、変えよか。

加藤

ネガティブな方向に？

忍野

死刑とかでいいんじゃないの。

沢城

え、留年したら死刑？

忍野

留年を死刑って名前に変えるの。

川鏝

俺、3回目の死刑で親から勘当されてもうた。

忍野

それだけ聞くと極悪人だな。

—千和、やってくる。

千和

おはようございます。

一同

おはよう。

加藤

…。

—加藤、千和を見る。

加藤

おはヨン様。

千和

…おはヨン様。

加藤

…えー。

—千和、意を決したように、

千和

ごめんなさい、私、

ーしかし、無視され、またストレッチを始める。

忍野　しかしこうも暑くちゃ、稽古やる気も起きんねー。
沢城　すいません。明日は稽古場押さえてるんですけど。
加藤　梅雨明けにいきなり本気出しすぎだよな。気温も、蝉も。
川鏑　てかな、校舎は開いてんねんから中でやろうや、冷房あんねやし。
加藤　またその話？お前、あんだけ大喧嘩したのにまだ懲りてねえの？
沢城　僕ら、公認サークルでも何でもありませんからね。
川鏑　でもむかつくやん。あいつら公認サークルか何かしらんけど、俺らいうたら先輩やで、人生の。あるいは学部の。
加藤　いやいや、喧嘩した手品サークルにお前の先輩いたじゃん。
川鏑　いやいや、おったけどやな。おったけどやな、だけど、俺が入学7年目の3回生で、あっちは入学4年目の4回生やで。そんなん、俺の方が先輩やん。
忍野　後輩じゃん。
加藤　だけどお前、そいつ出てきた途端に逃げただろ。
川鏑　逃げてないよ。
加藤　逃げたじゃん。
川鏑　逃げてないよ。
忍野　逃げたじゃん。
川鏑　いやいや、逃げたで。
加藤　逃げてんじゃん。
川鏑　逃げたで。なんなん、謝ったらいいの？
千和　あの、あたし、やっぱり、
忍野　だけどさ、いろいろこんがらがるよね、実際。僕、9回生だけどさ、おそらく2回生だろうなって人にも最初は敬語で話すもん。
沢城　あ、分かります。
忍野　でしょ。
加藤　次の公演ってさ、もう話とか決まってんの。
沢城　だいたい。
加藤　え、そうなの。すげえな。旗揚げ公演終わったばかりじゃん。
沢城　沸いてくるんですよ、それが。
忍野　へー。これは将来に期待が持てそうだね。
川鏑　旗揚げ公演でも評判良かったもんな、台本。
千和　あの、ちょっといいですか。
川鏑　ん？
千和　あたし演劇とかやっぱり、ちょっと、向いてないかなって。

一間。

加藤　いやいや、旗揚げ公演のアンケート、一番褒められてたの、如月じゃん。
千和　でもあたし、ただつたってただけで。
忍野　きみ、立ってるだけで劇的だから。
千和　え？
忍野　何て言うか、オーラある。
千和　オーラありませんよ。

沢城 たとえ立ってるだけだって、十分ですよ。

千和 そんな事ないって。

沢城 オーラ無いけど、目を引く。

千和 目、引かないよ。

沢城 目を引かないけど、興味が沸く。

千和 そんな事ない。

沢城 僕はそんな事あります。あなたがこれまでどうしてたのか、今どうしているのか、いろんな事を知りたくなる。

一などと言いながら、一人ずつハケては、浴衣に着替えている。淀みなく。

沢城 とにかく、9月の公演、またびしっといい役振りますんで、よろしくお願いします。